

学生の活動について

TOPICS 01

学生広報委員を結成しました ～学生の視点から大学の魅力を発信～

2024年度に新たに発足した、「全学学生広報企画委員会」は、学生ならではの視点やアイデアを生かして、本学の魅力をより多くの高校生に伝えることを目的として2025年度から本格的に活動を始めました。

現在、20名の学生が所属し、オープンキャンパスをはじめとするイベントの企画立案を行うほか、大学公式SNSやYouTubeでの情報発信など、さまざまな活動を行っています。

2025年8月2日(土)に開催されたオープンキャンパスの中では、全学学生広報企画委員会による企画を実施しました。この企画は、自分が高校生だった時に知りたかったことをテーマに、学生の視点から、大学での学びやキャンパスライフ、クラブ・サークル活動のリアルな様子を紹介する内容で、参加した高校生のアンケートには「自分が入学するときのことを想像できたのでよかったです」という声があり、企画した学生たちも次の企画に向けて意識を高めている様子でした。

今後も各種イベントや情報発信を予定しており、学生たちの自由な発想とエネルギーで、本学の魅力をより多くの方にお伝えしていきます。



TOPICS 02

YouTubeチャンネルがリニューアル

2025年7月、YouTubeチャンネルをリニューアルしました。本チャンネルでは、現役学生のリアルな声を生かし、本学の魅力を深掘りしながら大学での学びやキャンパスライフをより身近に感じられるように、コンテンツを更新していきます。各学部の特集、教員紹介、卒業生との対談など、幅広い企画を通して本学の魅力を発信していきます。さらに、北広島市をはじめとした連携協定先とのコラボ動画も撮影予定です。ぜひチャンネル登録をお願いします。



公式チャンネル
はこちら！

You Tube



TOPICS 03

YOSAKOIソーラン祭り部が 優秀賞を受賞しました [第34回YOSAKOIソーラン祭りU-40大会]

本学YOSAKOIソーラン祭り部(チーム名「北海道医療大学～桜雅～」)が、北海道の夏の始まりを告げる一大イベント、第34回YOSAKOIソーラン祭りU-40大会において3年連続となる優秀賞を受賞いたしました。

今年のテーマは「煌星(きらぼし)」と題し、夕から夜へ、晴れから雨へ、空の変化と人の心の揺らぎを、力強く、繊細に表現しました。学生らしいエネルギーに加え、繊細な表現力による華麗な演舞を披露し、このような素晴らしい成果を得ることができました。学内外を問わず温かい支援と熱い声援を送ってくださった皆様に心より感謝申し上げます。



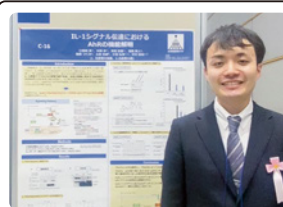
TOPICS 04

日本薬学会北海道支部第152回例会において 本学学生が学生優秀発表賞を受賞しました

2025年5月18日(日)に札幌コンベンションセンターで行われた日本薬学会北海道支部第152回例会のポスター発表において、本学大学院薬学研究所の院生1名と本学薬学部の学部生1名が学生優秀発表賞を受賞しました。

当会は第72回北海道薬学大会(2025年5月17日(土)、18日(日))の中で実施され、ポスター発表20演題の中から8演題が学生優秀発表賞に選ばれたうちの2演題が本学の学生でした。

本学薬学部では4年次から6年次にかけて、科学者としての薬剤師の能力を涵養するために、配属研究室にて少人数制による必修科目「総合薬学研究」を行っています。総合薬学研究を受講するうえで、6年生に北海道薬学大会の参加を必須としており、学生は大会の参加を通じて最先端の研究を学びました。



箱田 涼
(院生・環境衛生学研究室)

演題 IL-1シグナル伝達におけるAhRの機能解明



片淵 天嶺
(学部生・臨床薬理毒理学研究室)

演題 扁桃体におけるセロトニン遊離を調節する局所神経回路の薬理学的解析

TOPICS 05

2025年度第1回「ともに歩む会」が開催されました

2025年7月12日(土)に札幌市中央区の社会福祉総合センターにて、第5回「ともに歩む会」が開催されました。今年は新たに高校生ボランティアも参加し、パーキンソン病と向き合う方々と本学リハビリテーション科学部理学療法学科の学生、高校生が一堂に会する貴重な交流の場となりました。

当日の様子と活動内容

当日は午前10時から準備を開始し、学生・高校生によるリハーサルで入念な準備を行いました。13時からの交流会では、まず参加者間の親睦を深めるレクリエーション活動を実施し、和やかな雰囲気の中で交流がスタートしました。続いて、北海道脳神経内科病院の小林拓司氏(本学科3期生)を講師にお招きして「パーキンソン病の転びやすさと歩行補助具」をテーマとした講話・体験会を行いました。参加者は実際に歩行補助具に触れながら、パーキンソン病の症状や日常生活での工夫について具体的に理解を深めることができました。専門的な内容でありながら、実体験に基づいた分かりやすい説明により、参加者全員が熱心に耳を傾けていました。

その後の座談会では、日常のリハビリテーションに関する相談から夏に楽しみにしていることまで、さまざまなトピックについて活発な意見交換が行わ



れました。世代を超えた参加者同士が互いに支え合い、学び合う温かい交流が生まれ、予定時間を超えても話が尽きない様子でした。

今回初参加となった高校生ボランティアも積極的に交流に参加し、医療・福祉分野への理解を深める貴重な体験を得ることができました。学生にとっては教科書だけでは学べない当事者一人ひとりの声に耳を傾ける実践的な学びの場となり、パーキンソン病当事者の皆さんにとっては若い世代から元気をもらい、社会とのつながりを再確認する機会となりました。

TOPICS 06

ISES-ISEE 2025で本学大学院生がPOSTER AWARDを受賞しました

2025年8月17～20日に米国ジョージア州アトランタで開催されたThe International Society of Exposure Science (ISES)とThe International Society of Environmental Epidemiology (ISEE)の合同学術年会で本学大学院薬学研究所環境衛生学研究室の大学院生3年 安田彩夏さんがPOSTER AWARDを受賞いたしました(演題名:Exposure to Phthalates and their Associations with Short-Chain Fatty Acids in Plasma among School Children: The Hokkaido Study)。このISES-ISEE 2025には、世界中から環境疫学を専門とする多くの研究者(約1,900名)が参加しました。若手研究者の約300名が発表した演題の中から10名にPOSTER AWARDが授与され、日本人として安田さんがただ一人選ばれました。

本研究は、北海道の母子を対象とした疫学調査において、環境化学物質曝露による子どもたちへの健康影響を長期にわたって観察することで、将来の疾患リスクを予測することを目的としています。安田さんは、「現在進めている子どもの疫学調査を継続し、近年注目されている腸内環境や関連疾患のリスクに及ぼす環境化学物質曝露の影響を調べることで、北海道に生まれたお子さんたちの未来の健康を守る研究につなげていきたい」と話していました。



指導教員 小島弘幸教授と本学院生 安田彩夏さん